日刊建設工業新聞
THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS
2018年（平成30年）
9月12日 水曜日
第19506号

発行所　日刊建設工業新聞社
〒106－0021 東京都港区東新橋２－２－10
電話03(3433)7151　https://www.decn.co.jp/
©日刊建設工業新聞社 2018
記者　電話03－3433－7161　mail-ed@decn.co.jp
製販　電話03－3433－7152　mail-sa@decn.co.jp
広告　電話03－3433－7154　eigyo@decn.co.jp

明治維新150年と治水の歴史

〈27〉 室戸台風と伊勢湾台風

竹林征三

台風の豪雨による洪水は上流より来襲し堤防を破堤させ大災害に至る。日本の三大ゼロメートル地帯においては、上流からの洪水来襲より恐ろしいのが、河口から遡上(そじょう)して襲ってくる高潮津波である。

津波は古文献に「海立」「海嘯（かいしょう）」とも書かれてきた。中国では海嘯のほか「海溢」「海漲」とも書かれる。地震や海底地形の急変で海洋に生じる大規模な波の伝播(でんぱ)現象であり、低気圧で引き起こされる高潮や強風により発生する高波とは、メカニズムとして異なるものである。大量の海水が河口から波のように遡上してきて堤防を越流してくる様は、被害を受ける側からすれば同じような現象である。

昭和三大台風といわれているのは室戸台風、伊勢湾台風、枕崎台風である。このうち室戸台風と伊勢湾台風の被害が大きくなったのは台風による豪雨でなく、河口から遡上してきた高潮が堤防を越し、河口の低平地を大浸水させたためである。

１９９５（平成７）年の阪神淡路大震災（死者・不明者６４３７人）以前に最大の死者・不明者を出した自然災害は、１９５９（昭和34）年の伊勢湾台風（死者・不明者５０９８人）であった。それに次ぐのが１９３４（昭和９）年の室戸台風（死者・不明者３０３６人）である。伊勢湾台風は１５００人、室戸台風では１９００人が高潮による死者・不明者と見られている。

室戸台風では満潮時は過ぎていたが、潮位は高く、台風上陸時９１１・６㍉㍜を記録し、風速60㍍の風により４㍍以上の高波が海岸防潮堤を越した。朝８時頃で小学校の登校時に重なり、大阪市内の小学校で２６７人ほか堺市や高槻市などでも多くの小学生が犠牲になった。これと同じような海嘯現象が過去何度も大阪湾岸を襲っている。

大阪で２０００人に近い犠牲者を出した宝永地震（１７０７年）と安政南海地震（１８５４年）で全く同様相の津波被害があった。浪速区の大正橋東詰めに「両川口津波記」という有名な石碑の四面に犠牲者への供養と後世への警告と教訓が克明に記されている。

また、安政南海地震による津波の碑として堺市の大濱公園に「擁護壘」と刻された大きく立派な石碑が建立されている。堺の町を津波災害から守ってくれたことへ感謝し、今後とも守ってくれるように神へ願っているのである。大阪市此花区の春日出の共同墓地に「重修桜堤碑」という非常に格調の高い立派な石碑がある。昔、三新田が合議し出金して堤防を築いたので大患にかからずに済んだが、１８４３（天保14）年代官の築山氏が目前の利をむさぼり堤防を取り崩した。その結果また災害を被るようになった。民間人の清海安五郎翁がそれを憂いても う一度重ねて桜堤を修築し、１８８５（明治18）年の大海嘯は免れることができた。清海安五郎翁の感謝報恩の碑である。

伊勢湾台風の国内総生産（ＧＤＰ）比被害額は阪神淡路大震災の数倍、関東大震災に匹敵する。第２次世界大戦後の自然災害としては最大のものだ。上陸時は９２９㍉㍜、満潮時３・89㍍に達した。海岸堤防の高さは３・38㍍でゼロメートル地帯は水没、名古屋市南区では１カ月以上浸かったままだった。ひどいところで被災から半年たった翌３月下旬にようやく水が引いた。名古屋港の貯木場にあった20万㌧に上るラワン材（直径１㍍、長さ10㍍、重量７～８㌧）があふれ民家などを直撃して大被害となった。

南区の１５００人の犠牲者はこれが主たる原因だ。ゼロメートル地帯の住民は近くに高台もなく海抜以下の低い土地に住んでいることもほとんど知らなかったという。伊勢湾台風の石碑を訪ね歩いたら60以上あった。一つの災害としては最多ではないだろうか。この伊勢湾を踏まえて徳山ダムや横山ダムが建設されることとなった。

〈参考文献・『物語日本の治水史』鹿島出版会〉

（富士常葉大学名誉教授、風土工学デザイン研究所会長）

＝週１回掲載＝